夕刊 磐城新聞
五月三十日發行
定價 一ケ月 金五十錢（郵稅拾五錢）
廣告料 五號 一行 金六拾錢 ／ 二號 一行 金九拾錢（指定一行廿五錢）
發行所 磐城新聞社 平町
（日曜祭日翌日休刊）

紙屑散見（6）

赤井嶽男

八八の先生 中

其の三十年前の八八の先生が突如として何の前觸れもなく今年某月某日A君の前に現はれたといふのである、A君より二つ三つ實際の年上ではあるが打見には十才も或は夫れ以上も老人に見へたといふ、五分刈を前のところだけ少し伸した樣な髮に勿論櫛の目も入れず七分通りは白髮になつて斜から靡いた私藩の樣な風情も淋しかつた、A君の勤め先からの歸りを二時間も座敷で待つてゐた、洋服のカラが垢とけとで黑く穢れて其の合せ目からは綠の切れた兒ャヤが覗いてゐたA君は一見して坂田氏のうらぶれ樣の甚だしいのに驚いた、夫れでも約三十年振りで會ふ思ひ出の深い中學校友達である、坂田氏が頗る固い挨拶をしてかかるのをA君は遮る樣にして只管この絶えて久しき友の再會の歡をお互の上に祝福したのであつた。

坂田氏の話は三十年前と少しも變らぬ善良性其のものの發露であつた 夫れに依ると中學卒業後少しは遅れたが兎も角南の方の或る高等專門學校へ這入つて二ケ年程通學したとの事である、其處で少し遊も遊んだが大体健康を損じて歸國せねばならぬ事となつたのが不幸の始まりで夫れから間もなく一人の母親を失ひ姉妹を失ひ同時に財產を無くして今日に至るまで『僕なぞは眞個の六無齋で妻無し子無し版木無しです、版木なぞは素より始めつから有りませんや』と云ひながら坂田氏は自ら嘲る樣に呵呵と哄笑した、昔なら恐らく此邊で一つ例の卒氣を握つて投げつけてパッと謂ふのを遣つたところだなとA君は坐ろに藁屋時代を想起して心に微笑を禁じ得なかつた 坂田氏が今まで遣つて來た職業の種類は一寸算へ切れぬ程であるといふ、其の內で巡査をS縣で四年勤めたのが一番長く續いた、而かも一番仕榮えのある仕事であつたといふ『で、現今は?』とA君が尋ねたので坂田氏は始めて『實は目下H市の塵芥除の監督の下の樣な役目をして居るが夫れもまた今月限りで罷めなければならぬ事になつて居るので困つて居る』と切り出したのでA君は早合點して夫れに付て新規の就職口の世話をしろとでも謂ふのが坂田氏の今日の突然來訪の第一要件であらうと考へた 然るに意外にも坂田氏の話は其の邊は至極あつさり跳越して仕舞つてともすると抽象的に哲學的にとなりたがる、其の內に不意と聲を密めて『實は誠に困つた問題が起つて居りまして』と遣り出した。

病める窓邊より

二葉みどり

白い紙に赤く咲きにし血痰の、痛く目に入る泣きたくなりぬ

一と時の咳入り續くそのあとの、胸の痛みに我れは淋しき

何もかもいらぬと言ひて見た壁の、黑きしみかな痛く目に入る

朝の目ざめ不快なりし寢汗なり、また目つむりし心おもたし

机の上に置きし鏡にジット見入る、顏の蒼さよ淋しき日なり

（一九三三、五、一八）

童謠集

島木赤彦（八篇の內）

花や（二）

花やは國から
手紙をよこす
昨日よこして
今日またよこす
雪が降つたと
云てよこす
夜なかに書いたと
言てよこす
夜なかに書いたら
眠いだろ
お山の國は
寒いだろ。

拈華微笑

資本の合同が町村に迄及びそう
◇
事業資金延納の赤井。町村の結婚話には先づ●られる方
◇
二晩程無聲座になつて再た復活
◇
磐中生の『失敬』平町の一新風景
◇
あすの日曜丈けで今年も早や水無月となる

5月31日

△馬關を下の關と改む(明治三三)△南阿聯邦成る（一、九一〇）△英國總選擧、婦人代議士十三名當選す（昭和四）△地方官會議の制規成る(明治八)△プラトーン生る、ソクラテスの高弟で其の『アイデア論』を以つて有名である、要するに希臘の倫理學はソクラテスに萠芽しプラトーンに花咲きアリストートルに實を結ぶものと云ふべし(紀元前四二七)

一日一禪

○
青山只解磨古今
流水何曾洗是非

時代警句（花盞）

○喧嘩をしても打つても打たれても罵つても罵られても絕交しても骨肉は骨肉だまさかの時は飛んで來て力になつて吳れる……（寄生木）

講談 元祿名妓傳

小邑井小巴演（宮野恒彦畫）

八十五席

○『武士安の兄いが其網られた前になつて大の字になつて眠つて居ります、

安だとて馬鹿でない、鳴右衛門を殺して龍神丸を乘取らうと云ふのには自分一人細で萬事出來上るものとは思つたからでございませう、

を解いて連れて來ませうか!』鳴『ハテ安が……どうも分らぬな、善兵衛やおつるを縛つて何とする氣だ縛つた奴は安と見えるが、ドレ〳〵』鳴右衛門不審な顏で立上がつたが、又お房の方をふり返り。鳴『重ね〴〵大切にしてやれ、我等は松の間の容子を見て來るから……』と寄合つた手下の顏をズーッと見廻した、流石は頭分武士安の變心を早くも悟つて、彼れに一味してゐるものはないかと思つて居ませぬ、船中にも密けに語り合ひ一味同心の人も十人足らずあつたが、迚も斯う云ふ場合には谷右衛門に助力は出來ない、何でも鳴右衛門や四天王の面々が醉ひ潰れて寢て居るところをやる力では叶はぬから不意に殺す、これが谷右衛門の計略だつたのだから今鳴右衛門や他の手下が氣立つて居るところへ刄向ひは致さない、困つたことが出來たと心中思ふのみ、幾分顏色を變へた位のことで口を利くものはありません、鳴右衛門は 鳴『七て前も一緒に來て呉れ』七『へエ』三笠の七を連れて松の間へ下つた、見ると成程おつる善兵衛の兩人は横てに縛り上げられ、大きな酒德利を轉がし夫れを枕として、武士安ゴウゴウ高いびきに眠つて居ります『ヤイ安此のざまはなんだ』と云ひながら枕にして居たカラ德利をボンと蹴上げた、幾ら敍んだつて枕を蹴られて驚かぬものはありません 安『ッ』と云ふと飛起きて眼をこすりながら見ると、前にお頭鳴右衛門が突ッ立つて居ります、而も長い奴を握つて何か事あれば斬つて來ようとの權幕 安『是りやア……お頭どうしたんで!』鳴『どうしたのだとは此方から尋ねることだ、お前はなに用あつて拙者の許しもうけず、此の松の間へ入り込んだのだ』安『ナーニ夫りやア醉つた元氣でございやしてね』武士安しまつたと●つたが、うまくくるめられる物なら、くるめて終はうさの量見 鳴『合點の往かぬ此の場の始末、まだ出先から歸つた許りだから、ぁね、きことも尋ねずに居たが、不審なことは此の始末ばかりでない、拙者の胸に落ちぬことは幾つもある併しそれは夫れとして如何に酒に心が亂れたとしてもしく縛り繩にかけるには仔細があらう、夫れはどうだ!』と言つてるところへ、三等の七は横ての物置から同じく縛られた三內を引出して來て、て早く猿ぐつわを取つてやる 三『え丶旦那様，武士安は飛んだむほんをオッ始めたのです、此逸は旦那様を殺して此の船を乘つ取りにかかりました、いろ〳〵な事を言つて此の娘を口說いたが、娘が何んと云つても承知しませんから、斯んな目に遭はしたのでございます、私は猿ぐつわで口は利けませんが、耳だけは好く聞えます、氣を許しておいでなさると旦那樣の者を取られて終ひます此逸の素情は給帽子嶽の山賊の頭で、ヘエ大變な惡い奴でございます』三內くやし粉れにベラ〳〵喋る。安『何だ此畜生あること無いこと、ほい立やがつて!』と醉つては居るが雲龍の谷右衛門、最う是迄と思つたのか足を上げてボンと三內を蹴返し、其儘鳴右衛門に向つて躍り掛らうとする、三笠の七は元來安とは仲惡の間柄齒切りをして安を睨んでゐたが、此の時 七『今迄は見分だと思つて默つて居たが、無闇にてを出しやアがると承知しねえぞ』と言ひながら安の後から、ヤッと許り組付いた 安『何をしやアがる此野郎めッ』と振はごこうとするが容易に放さない、遂に其處へ引倒して上になり下になり暫く揉み合ふ。

ラヂオ

仙臺 JOHK
：卅一日（日曜）：

△前九、〇〇 九、一〇A 氣象通報
△九、一〇 九、三〇A 榮養料理（鰯の午蒡卷）榮養研究所
△九、三〇 一〇、〇〇A（子供の時間）三羽雀と童話
△一〇、〇〇 一一、〇〇 修養講座（現代思潮に對する國民の覺悟）壬生雄舜
△一一、〇〇 一一、四〇B 講演（ジャンヌダルクに就て）エドモンローラン
△正午A 時報 氣象通報
△後〇、二〇 六、〇〇A 運動競技（春季六大學野球リーグ戰試合狀況）
△〇、三〇 〇、四〇A 全國ニュース
△〇、四〇 三、三〇 諸流新曲の日 一、箏曲 二、常磐津 三、新三絃曲 四、新內 五、新尺八と管絃合奏
△三、四〇A 氣象通報
△三、五〇A 經濟市況
△六、〇〇 六、三〇B（子供の時間）子供ラヂオ風景（漫畫クラブの一室）JOAK子供サークル
△六、三〇 七、〇〇A 趣味講座（劍道の話）高野
△七、〇〇A 全國ニュース 氣象通報 河北新報社ニュース 告知事項 番組豫告
△七、二五 七、五〇A 一、合唱
△七、五〇 八、一五ハ 二、獨唱
△八、一五 八、四〇A 三、ピアノ獨奏
△八、四〇 九、〇〇A 四、獨唱
△九、〇〇 九、三八A 五、管絃樂
△九、四〇A 時報 氣象報告 告知事項 番組豫告

廣告
吉田眼科病院
平町紺屋町電六八

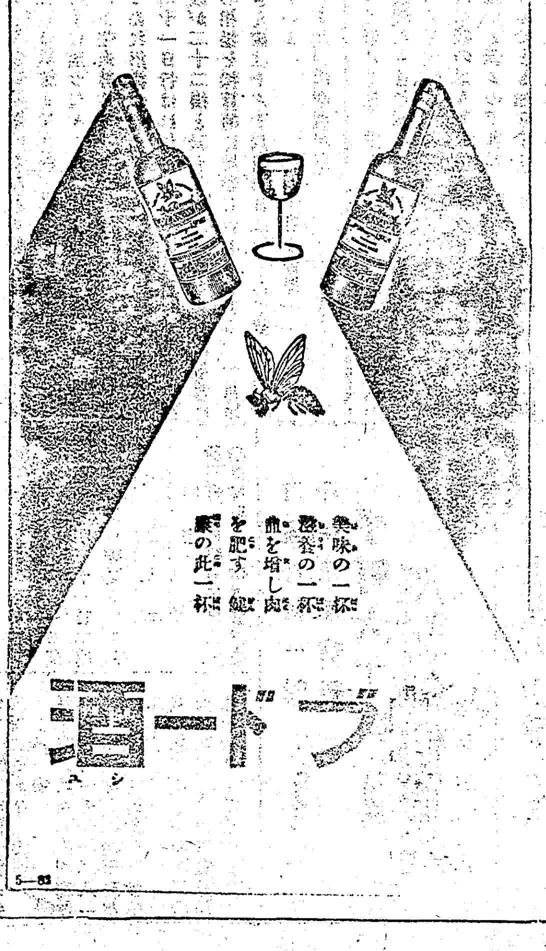
廣告
高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

夜間診療
胃腸 梅毒
內科 十二指腸蟲病 專門 內科部
淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關內藥局
電話

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（マツサキ）（松崎ニ）
三九二（ミクニ）タクシーへ
（デンワ、ミクニ）

診察時間繰上
◎受付 午前七時より
◎宅診 午前八時より
但し急患者は此限りに非ず
難波醫院
醫學博士 難波昭
平町新川端（釜屋新宅向）電話五〇二番
內科一般
（入院需に應ず自炊の便あり）



婦人子供洋服科新設
生活改善は先づ衣服から！
御覧なさい、學校に通ふ兒童、路傍で遊んで居る子供の大部分は洋服姿ではありませんか、近き將來には家庭の婦人までが洋服化せらるゝ時機も到來する事と思はれます。
是れを見ても新時代の婦人は洋服裁縫の知識が必要なばかりでなく、趣味と實益とを兼ねたる有利な職業と思はれます、本校は時代に鑑み婦人子供洋服科を新設し左記要項により親切に教授いたします。
入學資格及び……年齡十四才以上の女子は經驗の有無を問はず毎月入學を許す。
入學期
卒業及び月謝……普通科 三ケ月卒業 月謝二圓 高等科 三ケ月卒業 月謝二圓 研究科 六ケ月卒業 月謝二圓
ミシンを持たぬ方はミシン使用料を頂きます
卒業後の就職……研究科卒業の上は學校より材料一切を供給し技術の程度により賃金を支給致しますから婦人の職業としても適當と思はれます。
福島縣平町
平陽女學校
電話四四五番

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科專門
平町南町
（電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

專門
一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

大評判の新療法！
カイソネーチャの偉力
○○○○○
海草蒸氣療法
諸病奏効白パーセント
事實は無言の雄辯
即時來院御實驗あれ
（特許中山式）カイソネーチャ磐城分院
平 吉田五平
平町大町六（電話三七一番）

此際傳統から脱却し 經濟的に甦生を圖れ

教員の俸給不拂ひが動機で 石城の一部に町村併合の聲

町村財政の行き詰りから豊富な義務教育費國庫負擔金の交附を受け乍ら小學教員俸給の不拂ひ甚しきは三四ヶ月に達するものより一ヶ月おくり程度の町村が石城郡でも十指を屈して餘りある旨昨報の如くであるが之の間の經濟關係を緩和調節する一方法として夙くより各方面に於て論議されつゝある町村併合問題が石城地方有志の間に話題として上せらるゝに至つた

尤も之れが實行に就てはその町村特有の民情習俗があり永い間の傳統や因襲から併合後の空氣が兎角面白からぬもの無きに非る他方面の實例に徴し一がいにその可否を斷定することが出事ぬ形勢にある

が石城地方の如くさして事情を異にする僻陬遠隔の地少く行政區劃の隣接關係にして統一上甚だしき支障無き方面にあつては該町村併合の計劃は強ち可能性無き架空的なものでないと近來頓に一部識者を首肯せしめつゝあるので今後不幸にして世の中の樹て直しが容易に行はれず現今の世相が當分持續されて町村財政の行き詰りが依然たるものあるに於てはこの計劃は漸次有力な見解として世上の共鳴を見る場合あるではないかと觀測される

木炭縣營檢査狀況視察

濱三郡同業組合が 向後の改善に資す

濱三郡木炭同業組合では來月中旬關西方面の木炭縣營檢査狀況を視察すべく第一支部植田町渡邊重三郎、川前村菊地壽八、第二支部木戸村高原甚藏、津島村今野卅、第三支部原の町鹽谷雄周、同小野田文治の六名を派遣し近き將來に於ける同組合の縣營檢査に備ふるが尚ほ二十三日秋田市に開かるゝ內務省主催の北海道並に東北六縣木炭同業者批判會には二十五俵の木炭を出品すると同時に左記八名が之れに臨み今後の品質向上に資すると

△富岡町早川淸久△赤井村草野米彌△龍田村鈴木良七△平町大里金丸△久の濱町鯨岡義助△廣野村大越三吉△小高町村田松之助△中村町永谷淸五郎

內鄕青年 團報配付

各種消息を輯錄

內鄕村青年團では團長野木久彌氏主唱で來月一日から團員の善行美談、奉仕事業の概要、團員の希望等を謄寫し二百名の團員に配付すると

事業資金の延滯は 石城で赤井村丈け

勸銀から嚴重督促

縣下各町村公共團體では事業資金として起債を日本勸業銀行から仰いでゐるが農村不振の結果年々償還成績不良となり延滯するもの多く相馬郡原町の如きは五年度四ヶ期分一萬四千九百三十四圓を筆頭に十二ヶ町村合計三萬三百七十一圓の延滯額あり同行では會計年限切迫の折柄とて二十九日縣に嚴重償還方を依賴して來たので縣では該町村に對して償還方を督促する事になつたが石城郡では幸にして赤井村一ヶ村が千百六圓八十錢を借りてる丈けで他町村に該當事項がない

山火用喞筒

三日平署で試驗

郡下山林火災用喞筒の放水試驗は三日午後一時から平署前で行ふさ

從業員が結束して 有聲座の旗上げ

深刻な經營困難から マキノを東亞に變更

平驛前活動常設館有聲座は從來マキノの直營で頸敵平館を向ふに廻し深刻なる不況の裡に辛くも經營を續けて來たが大小二十人の從業員に支拂ふ三百五十圓の給料其他一ヶ月の經費約八百圓內外を要し近來兎角收支の平衡を得ず一層の經營困難に陷つた處當の責任者たる大內勇氏は福島市に居住し地元業務擔當者たる田中七五男氏は當面の打開策に窮して館を引き上げた爲廿餘名の從業員一同は玆に磯と行き詰り興行も一昨廿八日夜來休業の已むなきに陷つたが關係者一同の死活に係る問題なので百方應急策を講じた結果從業員の一致協力により東亞の經營として今三十日夜より營業を持續する事になつたと

野木組頭の寄附

內鄕村御厩消防組頭野木力氏は平町八坂神社に石標柱を寄贈する事となり此程竣工したので近く奉納式を擧行する

新綠の平町を訪れる シボレーの隊商一行

陸上ヨット外廿數種の尖鋭 三日に着くので歡迎の準備

過般各樣式の新型自動車を網羅して平町へ乘り込んだフォード自動車會社のキャラバン一行はまさに時代の尖端をゆく一新商戰術として各方面から多大の注視を集めたが近く今度はシボレーのキャラバンが來る事になり之亦多大の期待を以つて來着を望まれつゝある、一行は六月三日平町着福島モーター商會平出張所に於て四日迄展覧、五日早朝小野新町へ向け出發の豫定であるが參加自動車はシボレー乘用、貨物各型は勿論、撒水、消防、遊覽、土木用大乘合、その他合計二十數臺に及び呼物としては今回新設計の陸上ヨットがあり平町としては始めて見る珍らしい車體が多く地元自動車關係では之れが歡迎に就て寄々準備中であると

發聲映畫を公開

四日夜聚樂館で

別項シボレー大キャラバン隊は三日午後三時平町へ到着四日午前八時からシボレー、タウンカー、並に最近我國の市場で大センセーションを起して居るデラックス、フェートン型其他乘用車、バス、トラックのあらゆる新型自動車を網羅した二十五臺を平警察署跡の廣場に陳列し一般の縱覽に供し同七時から聚樂館に於てトーキーを開催し之亦公開する事になつてゐる、因に該キャラバンは日本ゼネラル、モータース會社が今回重なるボデー製造會社ガソリン並に滑油會社等と協同しての試みで參加は者前述各會社の關係者、新聞記者、活動寫眞技師並に運轉手總勢四五十人の人々で去月二十五日神戶を發し、東京より當地を經由して仙臺に至り、更に日本海岸に至り七月半頃約二ヶ月半の日程を終つて大阪に歸着する豫定であると

地方人を驚かす 陸上ヨットの內容

食卓から流し元迄ある 善美を盡くした諸設備

キャラバン中にある『陸上ヨット』は地方人の夢想だも及ばぬ素晴らしいものである、此の驚嘆すべき自動車は內部が二部に分れて居り、その一部は料理部屋で食卓、流し元、フリヂデヤー（水無し冷却室）を持つて居り、その第二部は立派な居室になつて居つて机椅子、卓子及び折疊み式寢臺等何もかも完全して居る後部は展望室になつて居つて之れは日本政府鐵道の一等車展覽室と少しも違はない迄に立派なものである

新磐府叱誤

◇濱通りの或る山寺に『蓋を明けると目が潰れる』と云ひ傳へられた古い厨子があつた。或る時旅の物識りが村民の忠告を押し切り全責任を負つて明けて見た處が金色燦爛たる法華經八卷だつたので大吃驚◇愚鈍な村民は後の祟りを根絶やし度いと云ふので其程貴重なものとも知らずにその儘其人に呉れて終つた處が貰つた人の代變りになつてから放蕩の結果之を一兩二分で質屋へ預けた◇後年それから其へと渡つて去る高貴の人の手に入り只物ちやないと鑑定の結果餘程由緒あるもので時價まさに十數萬圓。一部に金を削つた僞さへなければたしかに國寶ものであると云ふがサテ〳〵東北人の無慾さ加減よ。と最近來郡した南天棒老大師の述懷

投檜 寄書歡迎

啓蒙生の暴言

◇一度は各方面の猛烈なる反對の結果徹回されて官吏減俸も今回百圓を基礎として六月一日より實施せらるゝ事に決定したが是に依つて政府が捻出し得る總額は五六百萬圓と云はれてゐる

大体今日迄金解禁以來世界的不況と軌を一にして各階級の實收入は減少の一途を辿つて來た有產無產都市農山漁村を問はず全階級を通じて實收入減少は掩ふべからざる事實であつた

◇然してその結果消費力の減退となり財界の不振となり整理的合理化となり更に循環的にサラリーの低下となり失業者の增加となつて生產者、卸商、小賣商全部門を通じて悲鳴を揚げるに至り遂には破產となり馬脚を露はすに至つたものも無數にある生糸界注視の的となつてゐた沼津の春まゆ取引が二十一日行はれたが取引値段が二十二掛と云ふ處で此の相場を採算的に見ると養さん家は十〆十六圓となるといふ

◇しかも此の出來値が本年まゆ相場の標準となるのだから養さん家も浮ばれぬど見ねばならぬ米も採算に合はず唯一の養さん副業が斯の如くとすれば農家も立つ瀬があるまい、斯の如き時代に際し『城山啓蒙生』の言はるゝ事は暴言に等しいものである、一言城山君にむくゐて置く（平町五丁目小野榮一）

平町新風景

胎動に微笑む 朗なお城山の日曜

ゲツフ月賦の行進曲

卯花月三十一日。その日曜のあさはいとも朗かに明けました。解放されたる安息の日とあつて鐘の鳴るのも知らずにグツスリと寢込んでしまつた夫婦が互にほゝ笑ましい氣分で牀を出たのはまさに八時過ぎ、三の丸の新綠に反射する陽の光りが目に痛い時刻でした。夫唱婦隨を逆にゆくこの家庭では此の朝もハズが七輪の前に蹈くまつてバタ〳〵火を起しにかかつた事は勿論です。

○

目ざむる樣な胡瓜の新香ヴヰタミンABCのどれかがふんだんに含まれてゐると云ふ味噌汁――ニュームの辨當鉢に殘つてゐたハゼの佃煮も出してあつたが其れは表面には出しますまい――それに燒き海苔と云つた副食物の數々に簡素な朝餐を濟ました夫婦、何と滿たされたる水入たずの家庭ではあるよ。

『オヤツ再た動いてよ』胎動を喜ぶ愛妻の申告にわがハズは目尻を八時二十分處に移して心から法悦に滿ちた表情をするんでした。

○

それからが蓄音機です。月賦の拂ひ込みが遲々として進まざるに反してレコードはいとも輕快に走るんでした。朝つぱらからのヂャズに一番憤慨するのは隣りの舊藩仲間でも頑固屋の定評あるなにがし老です、今朝も盆栽の手入れをし乍らペッ〳〵唾を吐いては其の傍若無人振りに『世が世であつたなら――』と槍一筋の階級意識をそこに呼び戻すんでした。

○

皐月晴れの日曜を新舞子のそゞろ歩るき。それは久しい以前から兩人が樂しみ待つた幸福の日でした。過ぐる夜三井から購めた好みのセルはパラソルは。古い勘定に一部を入金して持つて來た品物ではあるが餘りにも似合ふぢやありませんか。それの試運轉をして見度かつたんです。その內に夫君も手取り早く洋服に着替えました、此際洋服ワイシャツ、ネクタイ靴ステッキ何れも月賦である事は更めて云はずと餘りに明白な事實である事を悲しみます

○

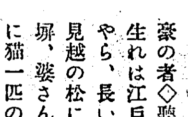
ゲップ、月賦、ゲップ、月賦。サイダを飲んだ後のおくびみ度いなサラリーマン夫妻の泣き度い樣な眞に涙ぐましい街頭への行進曲ではあるよ。

安齋外科醫院 平町田町電四三六 廣告

お辭儀を「失敬」に 磐中の敬禮改正

六月一日から實行

磐城中學校の生徒間及一般師長に對する交禮は從來脱帽の形式によつてゐたが萬事所謂スピーデーの今日甚だ新時代にそぐはないと云ふ處から六月一日より之れを廢し擧手敬禮に改正實行する事になつた、尙は從來一部に左右の云爲を試みられた列車通學生の風紀に關し之れが改善の一端に資すべく今後各方部に生徒中から監督を選び車內及乘降時の監視に當らしむる事となつた



艶罪黒白

◇近く新田町の△家から出るモウ好い年の姐さんだが、亀の甲より年の功、お喋りでお客を烟にまからうといふ豪の者◇聴けば生れは江戸村とやら、長いこと見越の松に船板塀、婆さん一人に猫一匹の呑氣な暮し、時々他人の兄が來たかどうか◇處が財界の變動で旦那が浮雲から足を突ッぱづして割箸の生木割くよな仕末となり、御破算で新規巻き直しの藝者稼業◇御宮から小賣への進出、之も經濟界の合理化か、一見それ者らしい容姿が彼女の半生の經歷を物語つてる

明日の吉凶

舊暦四月十四日　新暦五月卅一日

▲一白の人 野原に行き暮れて宿るべき家なく心細き日▲二黑の人 平運にして無理さへ行はざれば望みは叶ふ▲三碧の人 人に欺されくらまさるゝ事あり利慾にあせるな▲四綠の人 甘言に陷り易き日着實に分限を守れ病注意▲五黃の人 和合を旨とし協力一致して事に當れば成就す▲六白の人 屆せず事にあたれば成功目前にあり短慮警戒▲七赤の人 思ふ事遂げざるなく爲す事達せざるはなし▲八白の人 鐵石の志しさへ失はざれば不安の念も自滅す▲九紫の人氣運よく進むに功あれど金談だけは控ゆべし

バ號の出發 明日に延期

昨二十九日のひる過ぎ平町上空を通過したア中尉の太平洋橫斷バシフイック號は今三十日午前八時淋代を出發する筈であつたが天候の都合で一日間を延期し明三十一日早朝出發の事に變更されたと

平町人事

△出生 新川町一眞根井藤馬三男功 長橋町二〇伊達郡伊達崎村上郡五郎內十六八娑巣市二女和子

△婚姻 林木町三八東京府南葛飾郡小松町中平井一二八一郡司榮次郎(五二)埼玉縣兒玉郡旭村下野堂一八秋山よみ(三二) 東京市赤坂區中の町二〇大島秋光(三六)紺屋町三八市川ムメ子(一九)

內臟外科一般 外科花柳病科 （入院御意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥店 （おはなし）三番

時代は變る!!
破損性時計硝子より
不損硝子へ……
絕對安全なコワレヌ時計硝子が專賣特許品で出來ました。
最も經濟的であります。
是非御使用御試驗を願ます。
平三 大谷時計病院 電話十九番

外科 產科。婦人科
內臟外科 整形外科 外科一般
醫學士 松永憲一
院長 木村寅次郎
平新川町十九
木村病院
電話一六四番

貸切は●●
親しみあるサービスを以つて知られたる!
尼子タクシーへ
電話六四〇番
主任 澤正路

父荒川精一儀葬送に際しては御鄭重なる御弔問を賜はり奉深謝候乍略儀以紙上御厚禮申上候 敬具

昭和六年五月三十日 荒川晃一